医学教育分野別評価　群馬大学医学部医学科　年次報告書
２０２１年度

評価受審年度　　2017（平成 29）年

１．使命と学修成果

１．使命と学修成果	1.1　使命
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学部医学科の使命の中で，「国際的な健康障害」や「不平等な不正による健康への影響」に関する記載の追記が望まれる。	
現在の状況	
定期的に，アウトカムや教育ポリシーの見直しを行う予定であるが，改訂の機会はまだない。	
今後の計画	
時代の変化や社会からの要請に応じて，使命の見直しを行う PDCA サイクルを構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

１．使命と学修成果	1.3　学修成果
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
医学部医学科のアウトカムの中に，「卒前教育」と「卒後研修」との関連を明示すべきである。	
改善状況	
定期的に，アウトカムや教育ポリシーの見直しを行う予定であるが，改訂の機会はまだない。	
今後の計画	
時代の変化や社会，地域からの要請に応じて，医学科教育と卒後研修とのつながりについて適切な学修成果を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

１．使命と学修成果	1.3　学修成果
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が学生同士，教員，医療従事者，患者，そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得させるべきである。	
改善状況	
カリキュラム検討委員会が中心となり，学修成果を上げるための評価基準につ	

いて検討を進め，令和 2 年度にカリキュラム検討委員会において資質・適性・能力の評価項目を設定し学生の行動面に焦点を当てた評価方法の開発にも取り組んでいる。

今後の計画

カリキュラム検討委員会にて，学生の行動面に焦点を当てた形成的評価の開発を進める。引き続き，学生同士，教員，医療従事者，患者，そして家族を尊重し適切な行動をとることを学生が確実に修得できるような学修成果の達成について試験的運用の結果に基づき，改善を加えたうえで本格的な運用につなげる。

改善状況を示す根拠資料

資料1-1　令和2年度第1回カリキュラム検討委員会議事要旨
資料1-2　資質・適性・能力（態度）投稿フォーム

１．使命と学修成果	**1.3　学修成果**

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

国際保健に関する学修成果について検討することが望まれる。ここで求められる「国際保健」の内容は，「1.1 使命の注釈：『国際的健康，医療の観点』は，国際的な健康障害の認識，不平等や不正による健康への影響などの認識を含む」である。

現在の状況

複数の科目で国際保健を扱っているが，学修目標として明記していない科目もあった。令和 2 年度から導入した新カリキュラムにおいても国際保健に関する学修の機会を提供しており，その学修成果についても引き続き検討を進めている。

今後の計画

引き続き，国際保健に関する学修成果について検討していく。

現在の状況を示す根拠資料

資料1-3　2020年度 公衆衛生学シラバス

１．使命と学修成果	**1.4　使命と成果策定への参画**

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

「使命と目標とする学修成果」の策定に，「他の医療職，患者，公共並びに地域医療の代表者」からの意見を求めるべきである。

現在の状況

群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センターでは，公益社団法人群馬県医師会，一般社団法人群馬県病院協会，公益社団法人群馬県歯科医師会，一般社団法人群馬県薬剤師会，公益社団法人群馬県看護協会，一般社団法人群馬県臨床検査技師会，一般社団法人群馬県診療放射線技師会等が参画するぐんま地域医療会議において公共並びに地域医療の代表者等のニーズを収集している。

今後の計画

広い範囲の教育の関係者からの意見聴取のために，引き続き，群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センター等において，継続して公共並びに地域医療等のニーズを収集していく。

現在の状況を示す根拠資料

資料1-4　ぐんま地域医療会議と地域医療研究・教育センターの体制図 資料1-5　ぐんま地域医療会議会則 資料1-6　ぐんま地域医療会議構成員名簿

２．教育プログラム

２．教育プログラム	2.1　教育プログラムの構成
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
シラバスや授業スケジュールを，学生，教職員が理解しやすい環境を構築すべきである。	
改善状況	
平成 30 年度より，学生がよりスケジュール管理がしやすい環境として，既存の教務システムや Moodle を活用し，履修している授業のスケジュールを学生が可視化できるようにした。令和 2 年度入学生から導入した新カリキュラムについて，学生・教員の双方が教育プログラムの全容を把握しやすいよう，カリキュラムマップを刷新し，FD で周知を図った。学修の段階や順序などを表し，教育課程の体系性を明示することを目的に，附番ルールを変更する整備を行なった（ナンバリング)。	
今後の計画	
令和 2 年度入学生から導入されている新カリキュラムについて，ウェブサイト等での周知を図る。また，平成 3 年度よりナンバリングの運用を開始する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-1　教務システムトップページ 資料2-2　大学教育センター学部教務委員会(第1回) ・大学教育センター大学院教務委員会(第1回)次第・資料抜粋	

２．教育プログラム	2.1　教育プログラムの構成
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
自己点検評価報告書72ページDに「学生が自分の学修過程に責任を持って主体的に取り組むことのできるカリキュラムや学修方法を取り入れるための検討を開始する」と記載されているが，アクティブラーニングや学修意欲を刺激する学修方法の開発を早急に行うべきである。	
改善状況	
“学生が主体的に取り組むことのできる新カリキュラム導入”を目的とし，教養英語科目では「教育改革英語 WG」において学部間統一カリキュラムとして PBL 型英語教育の導入を定めた。令和 3 年度から教養英語科目の新カリキュラムを実施予定である。 また 4 年次「チームスキル演習」では，医療安全教育に対する学生の学修意欲を促進するため，具体的な実際の手術経過をもとにして，学生が能動的に“医療安全上のリスクとその対策方法”を学修する機会を設けている。 新型コロナウイルス感染症のため，対面型のグループワーク実施が困難となっ	

たが，多くの授業ではZoomのBreakout room機能やMoodleのフォーラム機能を用いたグループ討論を通じて，学生が協同でアクティブラーニングに取り組めるような工夫を行っている。

今後の計画

令和3年度からPBL型英語教育を実施する。対面形式の教育だけでなく，ZoomやMoodleを活用したオンライン教育プログラムを開発し発展させる。「チームスキル演習」ではグループ討論，グループでの協同課題制作を通じたチームワーク，リーダーシップ教育を開発，発展させる。新カリキュラムと現行カリキュラムの両方において学生の能動的学修の機会をさらに拡充するため，アクティブラーニング導入の促進と啓発を進める。またこれらの実効性を高めるため，カリキュラム検討委員会は継続的なカリキュラムの見直しと改善に向けた検討及び提言を続ける。

改善状況を示す根拠資料

資料2-3　第9回教育改革英語WG 議事要録
資料2-4　2020年度チームスキル演習　授業のすすめかた（学生用）

２．教育プログラム	**2.1　教育プログラムの構成**

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

能動的学修の機会を増やし，課題発見・問題解決，自己主導型学修，省察的実践のための能力をさらに育てていくことが望まれる。

現在の状況

これまでも，2，3年次の基礎医学科目，4年次の臨床医学科目にPBL，TBLを導入するなど，能動的学修の機会を設けていた。令和2年度入学生から導入した新カリキュラムでも新科目を中心に能動的学修の機会の拡充を図った。例えば1年次の「学びのリテラシー(1)」では，多様な文章を読解させ，お互いの読み方を小グループ内で討議し合う少人数制のアクティブラーニングを実施した。また，4年次の「チームスキル演習」では医療安全上の問題点と対策を示すシナリオを小グループで作成し，学生相互のフィードバックを行うことで課題発見・問題解決，自己主導型学修の能力の涵養に努めた。

今後の計画

令和3年度から「学びのリテラシー（1）」を発展させた科目を新設し，医師として必要不可欠な，「文章を読んで内容を理解し，適切に要約できる」能力，「患者の心情を理解し，共感を表現できる」能力，および「文章の内容や自分の意見を的確に相手に伝えることができる」能力を育てるための少人数制のアクティブラーニングを継続する。「チームスキル演習」では，グループ討論，グループでの協同課題制作を通じたチームワーク・リーダーシップ教育を開発，発展させながら，引き続き課題発見・問題解決，自己主導型学修の能力を育てていく。他科目においても引き続き，カリキュラム検討委員会を中心に能動的学修の機会の増加を図る。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-5　学びのリテラシー(1)シラバス
資料2-4　2020年度チームスキル演習　授業のすすめかた（学生用）

２．教育プログラム	**2.2　科学的方法**

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための助言

臨床実習でEBMが十分には実践されておらず，臨床実習の現場でEBMの実践を強力に推進すべきである。

現在の状況

臨床実習検討WGにおいて,EBMの実践について現状の臨床実習の内容の見直しと，新カリキュラムにむけた枠組みの検討を引き続き行っている。臨床実習検討WGにおいて，新カリキュラムにおける臨床実習（必修）の運営方針が検討され「EBMの理解と実践」が各診療科共通の学修項目及び評価項目として設定された。この学修を促進するために医療系データベースである「今日の臨床サポート」，「UpToDate」，「DynaMed」を継続して学生，教員へ提供し，活用を促進している。学外実習協力施設においてもEBMを実践できる新カリキュラム作成状況を報告し，施設での現状調査を行う旨情報共有し，新カリキュラムへの意見交換を行った。4年次のチームスキル演習や実習前集中講義のなかでエビデンス・プラクティスギャップを縮める一手法として医療の質指標（QualityIndicator）測定と活用法を学ぶ機会を設けた。

今後の計画

現在の臨床実習におけるEBM実践の状況を実習施設において調査し，EBMを実践できる新カリキュラムを構築する。臨床実習におけるEBMの理解と実践を推進するため，新カリキュラムにおける臨床実習で用いるルーブリック評価表の試験運用を行い，教育効果についての検討を行う。EBMに基づく診療ガイドライン作成と実践を，医療の質・安全教育の一環として位置づける。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-6　臨床実習検討WG資料「新カリ臨床実習で用いるルーブリック評価表(トライアル版)」
資料2-7　2020年度群馬大学医学部医学科臨床実習協力施設連絡会（第14回）次第
資料2-8　医療の質・安全学講義資料

２．教育プログラム	**2.4　行動科学と社会医学，医療倫理学と医療法学**

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

「現在及び将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」について社会医学系カリキュラムの中で検討することが望まれる。

現在の状況

現在及び将来的に社会において必要になると予測される行動科学・医療倫理学教育のさらなる充実と，態度系教育の拡充を図るために令和2年度に学年縦断科目「医系の人間学」を新設し，1年次から導入した。当科目では，医学生たちの人生経験の不足を補うために既存の教科や教科書からは得られない人間知・経験知を授け，さらにコミュニケーション力を養うことをねらいとし，身体活動系の時間も組み入れている。柱としているのは，①人間理解を深めるための学際的なトピック別講義と，共感力・想像力を育むためのドキュメント視聴とその後の意見交換，②人との関わり方を身につけるためのインプロ(応用ドラマの一種である即興演劇)の実技演習，③人間理解や人との関わり方を実際に医療場面で応用できるようになるための，ユマニチュード演習や，フォーラム・シアター(演劇の手法を用いた問題解決型討議)，多様な場面を想定し用意した医療面接模擬演習，

である。また，学生のモチベーションを上げるため，多くの臨床系教員が 1 年次の授業から参加していることにも特徴がある。コロナ禍のために対面での実施が制限される時期が長いなど困難がある中，当初の予定を変更したり実施方法を切り替えるなどさまざまな工夫を行っている。また，2 年～3 年次のプログラムの具体化の作業を進めている。

行動科学については，令和 3 年度に向けてカリキュラム構成の見直しを行い，2 年次科目「行動科学」と 3 年次科目「臨床行動科学」の連続性を高める構成に見直すとともに，2 年次科目「行動科学」に臨床系教員が関与することとして，垂直統合を図るカリキュラムとすることとした。

4 年次の医療安全教育の中で，患者参加型医療，意思決定プロセスとしてのインフォームド・コンセント，共同意思決定の実習を行った。

研究倫理教育の充実を図るため，令和 2 年度からは 3 年次科目「選択基礎医学実習」の単位認定要件に一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）が提供する研究倫理教育 e ラーニング APRIN の受講を加えることを決定した。

今後の計画

令和 3 年度より「医系の人間学」を 2 年次にも開講する。2 年次には，トピック別講義およびドキュメントの主題として，「エンド・オブ・ライフ」ならびに「障害」を予定している。人間理解を深めるために，月に１回ドラマ・シリーズの視聴と意見交換を開始する。インプロ実技演習およびユマニチュード教育は 2 年次においてもそのまま継続される。また演劇教育の専門家と俳優の協力を得て，フォーラム・シアターが毎月 1 回の頻度で開始される。医療面接模擬演習は 2 年次後期から開始される。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-9　医系の人間学プログラム案
資料2-10 医系の人間学担当教員リスト
資料2-11 2020年度「医系の人間学」の実際
資料2-12 実習前集中講義資料(インフォームド・コンセント)4年次
資料2-13 eAPRIN　医学科履修コースリスト

２．教育プログラム	**2.5　臨床医学と技能**

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

内科・外科・産婦人科・小児科・精神科・プライマリケアなどの重要診療科での十分な臨床実習週数を確保すべきである。

高齢者施設だけでなく，さまざまな医療の場でチーム医療を経験する機会を設けるべきである。

臨床実習で「健康増進と予防医学の体験」を学べる機会を設けるべきである。

学修成果を達成するための診療参加型臨床実習の在り方を学内で検討すべきである。

改善状況

新型コロナウイルス感染症により臨床実習（必修）の一部が中止となったが，臨床実習（選択）の実習期間の一部を臨床実習（必修）に充当することにより重要診療科での十分な実習週数を確保することができた。

感染拡大防止措置のための制限がかかる中でも効果的な臨床実習を実施するためにオンライン臨床実習 WG を設置し，本学独自の授業配信システム（G-learning，G-Conference）の使用方法や効果的なオンライン臨床実習方法を各診

療科に提示して臨床実習の充実をはかった。また，臨床実習危機管理 WG を設置し，患者，学生，病院スタッフ，指導医の安全確保の方法，臨床実習運営方法を決定し，学内外の実習先と連携して臨床実習を運営した。その一例として，動画教材「Procedures Consult」を実習中の参考資料として利用し，効率的な技能向上，能動的学修に努めた。

学外実習協力施設連絡会を継続して開催し，重要診療科の実習週数確保，さまざまな医療の場でチーム医療を経験する機会の増進，診療参加型臨床実習の改善のための意見交換を行っている。

臨床実習（選択）で往診・訪問診療をとりいれ多職種チーム医療，予防接種見学を経験するプログラムをとりいれた。

新カリキュラムにおける診療参加型臨床実習について検討する臨床実習検討 WG において,学修成果を達成するための診療参加型臨床実習の在り方を引き続き検討しており，令和 2 年度は新カリキュラムにおける臨床実習での医療倫理教育，患者や医療スタッフへの態度や配慮に関する教育を促進するためのルーブリック評価表案を作成した。

全人的実践的能力を習得する一手法として，入院患者が経験する一連の診療・ケアの全体像を想像し，模擬入院カルテを作成するとともに，Patient Journey Map（入院中の診療・ケアの流れ図）を作成することで，多職種の視点，患者の視点を理解するような演習を実施した。

今後の計画

令和5年度に予定されている診療参加型臨床実習への新カリキュラムの導入に合わせ，臨床実習のカリキュラムの改訂について引き続き検討する。

新カリキュラムにおける倫理・態度面の教育についての方策を検討し，臨床実習で用いるルーブリック評価表の試験運用を行い，教育効果についての検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料2-14 2019-2020　臨床実習（必修）巡回表
資料2-15 2020年度オンライン臨床実習WG（全2回）・臨床実習危機管理WG（全11回）開催日程
資料2-16 オンライン臨床実習教官用マニュアル（G-Learning使用法）
資料2-17 「Procedures Consult」アクセス数
資料2-7　2020年度群馬大学医学部医学科臨床実習協力施設連絡会（第14回）次第
資料2-18 2020年臨床実習（選択）チーム医療経験施設一覧等
資料2-6　臨床実習検討WG資料「新カリ臨床実習で用いるルーブリック評価表（トライアル版）」
資料2-19 チームスキル演習　プロダクト例

２．教育プログラム	**2.5　臨床医学と技能**

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

臨床医学教育カリキュラムで「現在及び，将来において社会や医療制度上必要となること」を定義し，実践することが望まれる。

低学年からの継続した患者接触プログラムを構築し，カリキュラム全体での患者接触プログラム期間を充分確保することが望まれる。

現在の状況

現在及び将来において社会や医療制度上必要となる医療の質・安全について学

修するために，1年次科目「医系の人間学１A」「医系の人間学１B」において人間工学，システム思考，質改善手法（PDCA サイクル）を学ぶ機会を設けた。
令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により低学年での病院・施設実習が中止されたが，実習先施設のご協力により多職種連携について現場のお話を伺うオンライン授業やオンライン施設見学等の代替実習を実施することができた。

今後の計画

「現在及び，将来において社会や医療制度上必要となることについてカリキュラム検討委員会で定義し，カリキュラムに反映させる仕組み作りを進める。低学年からの継続した患者とふれ合うプログラムを評価し，継続して改善を行っていく。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-20 2020年度医系の人間学１Aシラバス
資料2-21 2020年度医系の人間学１Bシラバス
資料2-22 2020年度チーム医療実習シラバス

２．教育プログラム	**2.6　教育プログラムの構造，構成と教育期間**

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

今後，講座間での連携を強化し，水平的統合をさらに促進していくことが望まれる。学年をまたいでの垂直的統合の教育は不十分で改善が期待される。
今後，学修者の学修意欲を促進しより効果的な学修を促す目的で，科目や講座間での連携を強化し，垂直的統合を促進していくことが望まれる。

現在の状況

水平的統合の強化と，垂直的統合の改善を目的とし，令和 2 年度に導入した新カリキュラムでは「生物学演習」「生物学実験」「化学実験」を水平的に統合し，新設科目「自然科学演習・実験」に改編した。学生が各回の内容を深く理解し，より効果的に学修するために，本科目と同時期に開講している生物学と日程及び内容の連携を図り，水平的統合を図っている。また，令和 3 年度から 2 年次科目の構成を集中講義形式から帯講義形式に変更し，「生理学」「肉眼解剖学」等の複数科目についても水平的統合を図ることとなっている。
行動科学・医療倫理学教育のさらなる充実と態度系教育を図るために学年縦断科目「医系の人間学」を令和 2 年度に新設して実施した。当科目は 1 年から 3 年の連続した講義である。人生経験が少ない医学生たちに臨床知・経験知を授け，それと同時に学年を縦断して継続的に彼らの態度面の評価を行うために，早期から多くの臨床系教員が関与している。

今後の計画

新カリキュラムに基づく上述の統合効果について，カリキュラム評価委員会や IR 室等で評価を行うと共にカリキュラム検討委員会での検討を続け，PDCA サイクルによる改善を図っていく。また新カリキュラムの導入に合わせ令和３年度以降には学年縦断科目「医系の人間学」の 2 年次科目の開講や「生理学」「肉眼解剖学」等における水平統合を確実に導入し，引き続き水平的統合の強化と垂直的統合の改善を進めていく。

現在の状況を示す根拠資料

資料2-23 令和2年度生物学A授業日程表
資料2-24 2021年度 1，2年生時間割（案）履修手引抜粋

２．教育プログラム	2.7　教育プログラム管理
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム検討委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。	
現在の状況	
カリキュラム検討委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を選任することが議論されているが，現時点では含まれていない。	
今後の計画	
外部委員の候補者を選定し，検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料なし	

２．教育プログラム	2.8　臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習協力施設からの意見を具体的なカリキュラム改革に活かすことが望まれる。	
現在の状況	
学外実習施設との連絡会を継続して開催し，新カリキュラムの作成，評価方法の策定に関する進捗状況を報告し，改善のための意見交換を行っている。 臨床実習検討 WG において，新カリキュラムにおける臨床実習（選択）の充実化を図る方策について検討を行っている。	
今後の計画	
今後も連絡会の内容を充実させ，施設からの要望を教務部会，カリキュラム検討委員会に提示し，カリキュラム構成に反映させる。 臨床実習協力施設連絡会で新カリキュラムにおける臨床実習の検討状況を紹介する時間を設け，学外での臨床実習施設を学生が選択する際に，学生の進路や関心に基づく選択に役立てる目的で，各実習施設の特徴や得意な診療分野，修得可能な手技等についてアンケートを行う予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-7　2020年度群馬大学医学部医学科臨床実習協力施設連絡会（第14回）次第	

３．学生の評価

３．学生の評価	3.1　評価方法
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価基準が科目ごとに決められており，その基準も必ずしも明確ではない。カリキュラム全体として評価の在り方を検討すべきである。	

改善状況
カリキュラム全体としての評価の在り方について大学教育センター学部教務委員会を中心に検討し，全学におけるルーブリックの導入による成績評価の明確化に取り組んでいる。また全学組織として，大学教育・学生支援機構に教育アセスメント委員会を設置し，教育内容・方法改善，成績評価などの組織的チェック機能を強化している。
今後の計画
令和 3 年度からのルーブリックの運用に向け，教員や非常勤講師への周知を行う。教育アセスメント委員会の運用を開始する。
改善状況を示す根拠資料
資料3-1　群馬大学大学教育・学生支援機構教育アセスメント委員会規程 資料3-2　ルーブリック解説パンフレット

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価が外部の専門家によって吟味されるべきである。	
改善状況	
医学科の成績評価について教育改革推進室で分析を実施しているとともに，カリキュラム評価委員会には外部の専門家に加わっていただき分析結果について意見をいただいている。	
今後の計画	
上記制度を継続して運用する	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-3　令和2年度カリキュラム評価委員会名簿 資料3-4　令和2年度 第3回カリキュラム評価委員会次第	

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教養科目だけでなく，専門科目でも疑義申し立て制度を作るべきである。	
改善状況	
平成 30 年度から，専門科目の成績に関する疑義申し立て制度として成績評価確認申請制度を運用している。	
今後の計画	
上記制度を継続して運用する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-5　成績評価確認申請に関する申合せ	

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	

臨床実習ポートフォリオは，学生が経験したことを学生自身が省察できるよう活用することが望まれる。
改善状況
学生が，指導医及び患者からの形成的な評価を受けて改善点を確認し，次からの実習に臨めるよう有効に活用するために，指導医からのフィードバック，医学生に対する評価表，医学生に対する評価表（患者から）をポートフォリオに加えるよう指導している。
今後の計画
臨床実習前科目において，臨床実習ポートフォリオの内容と活用方法について解説する時間を設けるなど，学生への周知を図る。
改善状況を示す根拠資料
資料3-6　群馬大学医学部医学科臨床実習ポートフォリオ

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
科目ごとに行われている評価の信頼性，妥当性を検討することが望まれる。	
改善状況	
各科目の評価の信頼性，妥当性を検討するための準備として，学部教務委員会において評価基準の設定を行った。これに基づき医学科科目でもルーブリックの作成を進められるよう，医学科の評価基準を設定した。	
今後の計画	
評価基準に基づく各科目の評価項目と到達度の設定を進められるよう周知に努める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-2　ルーブリック解説パンフレット 資料3-7　医学部医学科ルーブリック評価基準	

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
評価の透明性，公平性を高めるために，外部評価者の活用を検討することが望まれる。	
改善状況	
学生評価の透明性，公平性を高めるため，令和２年に成績評価確認申請に関する申合せを改訂し，同年度より外部の専門家からの意見を求める仕組みを導入している。	
今後の計画	
上記制度を継続して運用する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-5　成績評価確認申請に関する申合せ	

３．学生の評価	**3.2　評価と学修との関連**

基本的水準　判定：部分的適合
改善のための助言
学修成果と教育方法との整合性を検討すべきである。
改善状況
臨床実習で身に付けた技能を学修成果として適切に評価するために,OSCE 運営委員会において臨床実習終了後 OSCE の実技課題を作成し，その結果を踏まえて教育方法についても検討を重ねている。
今後の計画
臨床実習終了後 OSCE において評価する技能の幅を広げることを念頭に OSCE 運営委員会で継続して課題作成を行う。
改善状況を示す根拠資料
資料3-8　群馬大学医学部医学科OSCE運営委員会内規

３．学生の評価	**3.2　評価と学修との関連**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
各科目における教育方法と学修成果の達成を段階的に評価するシステムを早急に構築すべきである。	
改善状況	
臨床実習検討 WG において学修成果を達成するための診療参加型臨床実習の在り方について検討を重ねており，各診療科で用いるルーブリック評価の開発に取り組んでいる。	
今後の計画	
臨床実習で用いるルーブリック評価の試験運用を行い，改善につなげる	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-6　臨床実習検討WG資料「新カリ臨床実習で用いるルーブリック評価表（トライアル版）」	

３．学生の評価	**3.2　評価と学修との関連**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
卒業時までに設定した学修成果の到達を確実に評価すべきである。	
改善状況	
卒業時の学修成果の到達度を確実に評価するための評価方法の開発を行っている。令和 2 年度にカリキュラム検討委員会において資質・適性・能力の評価項目を設定し，これらの面で多角的検討を要すると思われる事例について教職員が報告する仕組みについて検討を行い，試験的運用を開始している。	
今後の計画	
試験的運用の結果に基づき，改善を加えたうえで本格的な運用につなげる。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-2　資質・適性・能力（態度）投稿フォーム	

３．学生の評価	3.2　評価と学修との関連
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「基本的知識と統合的学習の両方の修得を促進するために」各学年で行われている試験の回数，および試験範囲を再検討することが望まれる。	
改善状況	
各学年で授業での演習課題，レポート課題や試験を取り入れた多面的な評価が導入されている。	
今後の計画	
演習，リアクションペーパー，期末テストなど多面的な評価を行い，基本的知識だけでなく統合的な学修と習得の支援を進める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-9　医学科生試験回数一覧	

４．学生

４．学生	4.3　学生のカウンセリングと支援
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修上の問題だけでなく，学生個人の問題に対応する制度を作り，学生一人ずつの成長を担保していくべきである。	
改善状況	
学生一人一人を支援するためのチューターを始め，個人の抱える問題に対応するための制度が厚生補導委員会や大学教育・学生支援機構を中心に整備されている。令和 2 年度には COVID-19 の感染拡大の影響により経済的支援や精神的支援を必要とする学生に対して支援金等の案内や専門家による心理的支援を拡充した。	
今後の計画	
引き続き学生個人の問題への支援を提供し，学生一人ずつの成長の担保に務める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料4-1　学生への経済的支援一覧 資料4-2　健康支援総合センターによる支援	

４．学生	4.4　学生の参加
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラムを管理する委員会活動に，どのように学生が参画するのか検討すべきである。	
改善状況	
教育プログラムを管理する教務委員会では，正式な委員としての学生の参加は	

なされていない。5-6 年次の臨床実習（選択）の運営にあたっては，学生の委員が参加し重要な役割を果たしている。今年度は COVID-19 の感染拡大状況の変化により臨床実習先の頻回の変更を余儀なくされたが，この際も教員と学生の委員が緊密に連絡を取り合うことで臨床実習を運営することができた。
今後の計画
既に教育プログラムの策定及び評価のための委員会には学生が正式な委員として参加している。今後も教育プログラムを管理する教務委員会において個別の課題に対応するためのワーキンググループ等が発足する場合には，学生の参加がなされるように配慮していく。
改善状況を示す根拠資料
資料4-3　2019-2020　臨床実習（選択）学生委員

５．教員

５．教員	5.1　募集と選抜方針
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
なし。	
改善状況	
カリキュラム改訂，社会の変遷に応じて講座改編を行いつつ，教員募集を行っている。令和 2 年度には医学系研究科の体制を見直し，病態腫瘍薬理学講座と神経薬理学講座の統合を行った。	
今後の計画	
時代の変化や社会，地域からの要請に応じて，卒前医学教育と卒後研修とのつながりについて適切な学修成果を検討していく。 今後は社会の変遷に応じた体制の見直しの一環として“がんのゲノム医療”にも対応可能な最新のゲノム解析技術と情報解析技術を駆使したゲノム医科学領域の研究者の募集を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5-1　薬理学分野教授募集要項 資料5-2　ゲノム医科学分野に関する教授会資料（一部抜粋）	

５．教員	5.1　募集と選抜方針
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
医療事故を受け医療の質・安全学講座を新設しているが，教員を早急に配置し実質的な活動を行うことが望まれる。	
改善状況	
医療の質・安全学講座の現在の教員体制は資料 5-3 のとおりであるが，学生教育，教職員への研修実施，最先端の医療安全手法の研究等，幅広い業務に対応するため，人員拡充の検討を開始した。 医療の質・安全学講座の担当授業科目は資料 5-4 に示すとおりであり，活発な活動を開始した。「チームスキル演習」「チームワーク実習」では多くの教員が関	

わり，医学科・保健学科合同の授業コマも設けるなど，多職種で連携して医療安全について考える教育を継続している。令和２年度からは，新規開講した１年次必修科目「医系の人間学１A，１B」にて医療安全について学ぶ機会を拡充した。

医学系研究科群馬手術手技研修センターでは外科系手術手技のトレーニングを通して，教員の手術手技の質向上を図るとともに，得られた知識・技術を，実習などを通して学生教育に活用している。このような医療安全に資する活動を継続するために群馬手術手技研修センターにも教員を配置した。

今後の計画

平成 30 年度から開始された活動を定着させるとともに，令和 3 年度以降も，医療安全教育の充実を図る予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料5-3　2020年度 医学系研究科　医療の質・安全学講座の体制等
資料5-4　医療の質・安全学講座教員担当の授業科目（2020年度）
資料5-5　2020年度群馬大学医学部医学科履修手引（一部抜粋）
資料2-20 2020年度医系の人間学１Aシラバス
資料2-21 2020年度医系の人間学１Bシラバス
資料5-6　群馬手術手技研修センター資料

５．教員	5.2　教員の活動と能力開発

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

個々の教員の教育・研究・診療のエフォート率を医学部が管理し，教員評価に利用すべきである。個々の教員がカリキュラム全体像を理解することを促進すべきである。そのためにも FD の活動を拡充すべきである。

改善状況

令和元年度に，大学や学部等のミッションに応じた教員の目標設定，研究分野や職位の特性を反映した公平・公正な評価を目的とした教員業績評価制度を全学で制定し，教員評価システムを構築した上で，試行的に一部教員を対象に運用を開始した。令和２年度は全ての教員が年度当初に個人目標・エフォート（貢献度）を設定し，学部長，所属（学科）長等の期首面談を実施した上で目標・エフォート確定後，当該年度の取組みが行われ年度末の評価を受けることとした。

併せて，教員のポートフォリオとして，年度ごとにデータを蓄積・管理するとともに業績をリサーチマップと連携する仕組みを整えた。

教育法やカリキュラムに関する FD を，医学部教員を対象として 2 回，全学部の教員を対象として１回実施した。

令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大の中，オンラインで授業，実習等実施することなったため，教員を対象としたオンライン授業説明会を全学部向けに 9 回，オンライン授業推進チーム（各学部）向けに１回，医学科向けに２回を実施した。

医療安全研修，臨床試験等に関する講習会を年間通して数十回開催している。

今後の計画

教員評価における教員自身による評価領域ごとの重み付け設定について専門領域別特性などを解析し，教育担当者の実質的配置状況と教育分担の適正化に繋げる予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料5-7　国立大学法人群馬大学教員業績評価実施要項

資料5-8　2020年度医学教育教授法FD次第 資料5-9　第12回全学FD連続講演会（チラシ） 資料5-10 教育改革推進室による教員向け説明会・FD 資料5-11 数理センターによるオンライン授業のための説明会・FD

５．教員	5.2　教員の活動と能力開発
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
教員の教育負担の増加に対し，更なる対策が望まれる。	
改善状況	
会議の整理などを通じ教員の拘束時間の軽減を図っている。また，オンライン会議環境の整備にともない，対面会議による移動及び資料印刷等の負担軽減にも繋げている。 医師事務作業補助者等の採用を開始し，臨床系教員の負担軽減，業務の効率化に繋げている。令和 2 年度には，採用枠を拡充し，さらなる負担軽減に繋げている。 地域連携推進による外来患者数の圧縮などを通じて，臨床系教員が教育及び各職務に専念する時間の確保を図っている。 令和 2 年度に看護師の特定行為研修センターを設置し，令和 3 年 2 月に厚生労働大臣から特定行為研修指定研修機関に指定された。この制度を利用し，令和 3 年度から看護師 1 名の研修を開始することとなった。これにより研修を修了した看護師を臨床業務へタスクシフトすることにより，救急，外科，集中治療，麻酔系の臨床教員の教育に充てられる時間の確保を図る。 講座・分野の再編を行い，教育の質の向上のため医学教育センターの教員を増員，教育基盤を強化した。 長時間労働となっている医師の働き方改革を推進するため，附属病院教員の勤務状況を適切に把握する目的で，医師の勤怠システム（Dr.Joy）の導入を進めている。	
今後の計画	
教員の増員を，大学本部に継続的に要望し，増大した業務に対応した人員を確保するとともに，教育の質向上に資する体制づくりを目指し，折衝を続けていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5-12 医師事務作業補助者の今後の体制 資料5-13 地域医療研究・教育センター組織図 資料5-14 2020（令和2）年度　医学教育センター教員配置 資料5-15 医師の勤怠管理システム（Dr.Joy）	

６．教育資源

６．教育資源	6.1　施設・設備
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生用ロッカー，高学年用の自習室や臨床実習期間中の学生専用の学習スペー	

スを確保すべきである。
基礎医学系実習室に学生が荷物を持ち込まないよう，学生のアメニティを整えるべきである。
病院で実施されている医療安全や感染対策に関する講習会に学生の参加を促進すべきである。

改善状況

令和 2 年度は 24 時間利用可能な高学年用の自習室である黒梅ホールに学習スペース 6 席を増設した。
附属病院教職員の医療安全・感染対策研修の推進のために導入した e ラーニングシステム (SafetyPlus®) を学生に提供することについて病院運営会議での承認を得た。

今後の計画

学習スペースは利用を希望する学生全員分の確保に至っていないため，さらに増設する必要がある。学生用ロッカー，高学年用の自習室については学生からの要望を踏まえ，必要に応じてさらに検討を行う。
学生のアメニティの整備については今後も継続的に対応していく。
学生の SafetyPlus®利用開始に向けて具体的な検討を行い，随時学生に周知して利用を促していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料6-1　自習室一覧
資料6-2　SafetyPlus®利用案内
資料6-3　病院運営会議議事要旨R2.4.28（非開示）

６．教育資源	**6.1　施設・設備**

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

新設される IR 部門とカリキュラム評価委員会の連携のもとに，定期的に学習環境が改善されることが期待される。

現在の状況

新型コロナウイルス感染症の流行下でオンライン授業を採り入れ，流行状況や授業内容(実習など)を鑑みて対面授業を併用した。オンライン授業システムには主に Zoom を利用するとともに，個人情報に配慮を要する授業ではより機密性の高い本学独自のオンライン授業システム G-learning を採用した。
オンライン授業を配信するために PC や有線 LAN を有する部屋を配信スタジオとして 3 室準備し，教員がいつでも授業に利用できるよう整備した。
対面実習期間中に学生がオンライン授業を受講必要が生じた場合に利用できるよう，ソーシャルディスタンスを保つことのできる講義室を整備した。
オンライン授業・オンライン実習の学習環境改善の目的で，学生にルーターやノートパソコンの貸し出しを行った。
医学部 IR 室会議が定期開催され，カリキュラム評価委員会と密に連携を取ることで学習環境の改善を目指している。
スキルラボセンターでは，シミュレータを使った医療技能習得のための実習や講習会が行われている。順次新しい機器が導入されており，トレーニング内容の充実が図られている。
図書館のグループ学習室の空調設備の改修工事を行い，学習環境を整えた。

今後の計画
学生からのニーズを聴取した上で，さらにオンライン授業聴講用スペースが必要かどうか検討を行う。 学生の要望に見合った情報機器を貸し出しできるように検討を行う。 引き続き学習環境の見直し，改善を図る。
現在の状況を示す根拠資料
資料6-4　オンライン臨床実習学生用マニュアル抜粋 資料6-5　授業配信スタジオ写真 資料6-6　ルーター・PC貸出一覧 資料7-12 令和2年度カリキュラム評価委員会（第1回）・医学教育分野別評価エリア主査会議（第1回）議事要旨 資料6-7　群馬大学医学部附属病院スキルラボセンターホームページ 資料6-8　図書館改修工事のお知らせ

６．教育資源	6.2　臨床実習の資源
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習ポートフォリオのデータを用いた「患者数と疾患分類」の検証を早急に行うべきである(疾患分類自体に関する妥当性の検討を含む)。 学外実習協力施設の教育環境をモニタすべきである。 適切な根拠のもとに「学生の臨床実習の指導者の確保」について検証し，指導体制を整備すべきである。	
現在の状況	
臨床実習（必修）終了時に学生から提出された提出物「経験症例一覧」について平成 28 年度コアカリに記載の「臨床研修開始時までに修得すべき 37 の主要症候」に基づき分析した。	
今後の計画	
実習における経験割合の少ない症候に関して，経験できる機会を増やす方策について検討を行う。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-9　2019-20年度臨床実習(必修)　経験症候集計	

６．教育資源	6.2　臨床実習の資源
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習ポートフォリオのデータや学生からの実習評価等の活用により，「学外教育病院・診療所などの臨床トレーニング用施設の評価，整備，改善」が継続的に実施されることが望まれる。	
現在の状況	
学外実習施設や各診療科に対する学生の評価に関して，提出物により情報収集を行っており，臨床実習協力施設連絡会の際にフィードバックを行っている。 感染症医療人材養成事業を推進するための学習環境整備を開始した。	
今後の計画	
学外実習施設や各診療科へのフィードバックにより，実習内容に改善が見られ	

たかどうか検証をしていく。
感染症医療人材養成を推進するために購入した物品を十分活用し，新たな感染症教育カリキュラムを開発・実施していく。

根拠資料

資料6-10 2019-2020年度臨床実習(必修)　学生からの評価
資料6-11 実習内容に対する評価
資料6-12 「感染症医療人材養成事業」の選定結果

６．教育資源	6.3　情報通信技術

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

診療参加型臨床実習を充実させるために，全学生に PHS を携帯させるべきである。
臨床実習中の学生に対して，十分な数の患者情報端末を確保するべきである。

現在の状況

各診療科に必修臨床実習生用，選択臨床実習生用の各 1 台の携帯端末を配付し，指導教員と学生の連絡に用いている。令和元年度に 70 台で試用を開始した学生優先の患者情報端末を 82 台に増設した。

今後の計画

今後も学生や診療科の意見を聞きながら情報通信設備の改善に取り組んでいく。
学生優先の患者情報端末の利便性や充足度について，今後も学生の意見を聞きながら改善に取り組んでいく。

現在の状況を示す根拠資料

資料6-13 学生用端末設置場所

６．教育資源	6.3　情報通信技術

質的向上のための水準　判定：部分的適合

改善のための示唆

ICT 環境を更に整備し，学生の「自己学習」を促進することが望まれる。
診療参加型臨床実習の充実のために，臨床実習中の学生がカルテ記載について効率的に学習できるような環境整備が望まれる。

現在の状況

学生に学習効果が高くかつ機密性の高いオンライン講義システムを提供するため，群馬大学独自のシステム（G-Learning）を構築し，運用マニュアルを作成して教員に周知し講義・実習に活用した。
Moodle を用いた学習環境を構築し，講義や実習の資料を学生に提示することにより，予習および復習の機会を提供した。また，Moodle を用いた課題やレポートの提出，小テストの実施を行って更なる学生の自己学習の促進に努めた。

今後の計画

学生の意見を取り入れながら，引き続き G-leaening を含めた ICT 環境を整備に努める。
臨床実習中の学生がカルテ記載について効率的に学習できる環境整備につい

て検討を行う。
現在の状況を示す根拠資料
資料2-16 オンライン臨床実習教官用マニュアル（G-Learning使用法） 資料6-14 Moodleを利用した教育・講義(群馬大学LMSすべてのコース)

６．教育資源	**6.5　教育専門家**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
学外の教育専門家の更なる活用が望まれる。	
現在の状況	
カリキュラム評価委員会に学内外の教育の専門家が委員として参加しており，必要に応じて指導・助言を受けている。 学内の教員による担当が困難な領域の講義・実習に関して，学外の教育専門家を非常勤講師として招聘した。 令和２年度の医学教育教授法FDにおいて学外の教育専門家を講師として招き，「学生の態度面に関する評価」についてFDを開催した。	
今後の計画	
引き続き，学内外の教育の専門家の協力を得ながら教育の継続的改善に務める。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-15 非常勤講師一覧（非開示） 資料5-8　2020年度医学教育教授法FD次第	

６．教育資源	**6.6　教育の交流**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
国際交流の促進のために，更なる経済的援助や担当教員の配置を含めた組織的支援の充実が望まれる。	
現在の状況	
グローバルフロンティアリーダー(GFL)育成コースに在籍している学生に対して経済的援助を行い，国際的に活躍する医師をめざす学生への支援の充実を図っている。 学生や教職員に対する留学プログラムに関して，大学から奨学金を提供している。	
今後の計画	
学生と教職員による国際交流をさらに推進する方策について検討を行う。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-16　GFL育成プログラムにおける卓越した学生に対する授業料免除候補者の推薦枠数に関する申合わせ 資料6-17 群馬大学学生海外派遣支援事業奨励金支給要項	

７．教育プログラム評価

7. 教育プログラム評価	7.1　教育プログラムのモニタと評価

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

　カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会の活動を早急に開始し，教育プロセスと学修成果を定期的にモニタリングし，評価結果をカリキュラムに確実に反映させるシステムを実働させるべきである。

改善状況

　カリキュラム評価委員会，カリキュラム検討委員会の活動を継続し，評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も活動を継続して行った。内部質保証にかかる体制・手順について明文化された全学的な規定として「群馬大学における内部質保証に関する方針」「群馬大学における教育の内部質保証に関する方針」「群馬大学の各教育課程の学位授与方針，教育課程方針及び学位に対する学修成果の達成水準に係る自己点検・評価及び改善実施要項」「医学科の教育課程における教育内容，方法に係る自己点検・評価及び改善実施要項」を定めた。

今後の計画

　令和 3 年度より「群馬大学における内部質保証に関する方針」をはじめとする上記記載の規定の運用を開始する。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　群馬大学医学部医学科の教育課程における教育内容，方法に係る自己点検・評価及び改善実施要項
資料7-2　群馬大学医学部医学科カリキュラム評価委員会内規
資料7-3　群馬大学医学部医学科カリキュラム検討委員会内規

7. 教育プログラム評価	7.1　教育プログラムのモニタと評価

質的向上のための水準　　判定：部分的適合

改善のための示唆

　カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会の活動を早急に開始し，教育活動，カリキュラムの構成要素，長期間の学修成果について，包括的に評価することが期待される。

改善状況

　カリキュラム評価委員会，カリキュラム検討委員会の活動を継続し，評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も活動を継続して行った。内部質保証にかかる体制・手順について明文化された全学的な規定として「群馬大学における教育の内部質保証に関する方針」「群馬大学の各教育課程の学位授与方針，教育課程方針及び学位に対する学修成果の達成水準に係る自己点検・評価及び改善実施要項」「医学科の教育課程における教育内容，方法に係る自己点検・評価及び改善実施要項」を定めた。

今後の計画

　令和 3 年度より「群馬大学における内部質保証に関する方針」に基づき上記規定の運用を開始する。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　群馬大学医学部医学科の教育課程における教育内容，方法に係る自己点検・評価及び改善実施要項

７．教育プログラム評価	7.2　教員と学生からのフィードバック

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

カリキュラム評価委員会，ＩＲ部門及びカリキュラム検討委員会を整備し，大学が主体となって教員及び学生からのフィードバックを系統的に求め，分析し対応すべきである。

改善状況

カリキュラム評価委員会，カリキュラム検討委員会の活動を継続し，評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も活動を継続して行った。臨床実習の各プログラムについて実習内容に関する評価を学生から系統的に収集し，分析した上で各プログラム実施者に提供してプログラムの改善に役立ててもらっている。群馬大学全学学習ふりかえりアンケート調査に加えて，令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の対策としてオンライン授業が中心となったため，教育改革推進室において「オンライン授業と学生生活に関する全学アンケート」を実施した。

今後の計画

引き続き教員および学生からのフィードバックを系統的に収集し分析を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料6-10 2019-2020年度臨床実習(必修)　学生からの評価
資料7-4　オンライン授業と学生生活に関するアンケート結果抜粋
資料7-5　群馬大学全学学習ふりかえりアンケート調査　(令和2年度)

７．教育プログラム評価	7.2　教員と学生からのフィードバック

質的向上のための水準　　判定：部分的適合

改善のための示唆

カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会，ＩＲ部門を整備しＰＤＣＡを実行し，教員及び学生からの系統的なフィードバック結果を利用してプログラム開発につなげることが望まれる。

改善状況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一部の臨床実習にオンライン臨床実習を導入するとともにオンライン臨床実習 WG（のちに臨床実習危機管理 WG に改組）を設置した。この WG を中心に学生及び教員を対象としたアンケートを実施し，臨床実習運営委員会を通して各診療科と結果を共有して実習プログラムの改善を促した。また，学生組織である学友会のアンケート結果および懇談会を通して，継続的なフィードバックを得ている。

今後の計画

引き続き教員および学生からのフィードバックを利用してプログラム開発に努める。

改善状況を示す根拠資料

資料7-6　2020年度第12回臨床実習運営委員会議事要旨
資料7-7　オンライン臨床実習アンケート
資料7-8　令和2年度教職員と医学科学友会による懇談会資料

7．教育プログラム評価	7.3　学生と卒業生の実績

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

卒業後の活動に関する系統的な情報を収集し，使命や学修成果との関連を分析する仕組みを整備すべきである。

医学部医学科のアウトカムに沿ったカリキュラム，資源の提供状況の分析を系統的に行うべきである。

改善状況

在学生については，カリキュラム検討委員会，カリキュラム評価委員会を稼働させ，評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室の活動を継続して行った。

学生に対する卒業時アンケート，学友会との懇談会も毎年継続して実施している。

医学科のアウトカムを達成するための臨床実習の資源の提供状況を分析するために，臨床実習における経験症例の分析を行い，「臨床研修開始時までに修得すべき 37 の主要症候」の各症候について経験割合を検証した。

今後の計画

引き続き各種の調査を継続する。

臨床実習の資源については，経験症例の分析結果に基づき現時点で経験割合の少ない症候を学生が経験できるような機会を増やす方策について検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料7-9　令和2年度　医学科卒業時アンケート結果の概要
資料7-8　令和2年度　教職員と医学科学友会による懇談会資料
資料6-9　2019-20年度臨床実習(必修)　経験症候集計

7．教育プログラム評価	7.3　学生と卒業生の実績

質的向上のための水準　　判定：部分的適合

改善のための示唆

系統的なフィードバックについて，カリキュラム評価委員会及びカリキュラム検討委員会，ＩＲ部門を稼働させ，学生と卒業生の実績を分析し，入学者の選抜，カリキュラム立案へのフィードバックを行うことが期待される。

改善状況

在学生については，カリキュラム検討委員会，カリキュラム評価委員会を稼働させ，評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室の活動を継続して行った。入学後の成績等に関するデータを IR 室で分析し，入試委員会および出題委員会にフィードバックしている。

今後の計画

引き続き学生の実績を分析し，入学者の選抜やカリキュラムの立案へのフィードバックを行う。

改善状況を示す根拠資料

資料7-10 小論文試験の出題方針（非開示）
資料7-11 第2回入試委員会議事要旨(非開示)

7．教育プログラム評価	7.4　教育の関係者の関与

基本的水準　判定：部分的適合
改善のための助言
早急にカリキュラム評価委員会を稼働させ，その評価結果を主な教育の関係者に提供すべきである。
改善状況
外部の教育専門家も委員に加わるカリキュラム評価委員会を継続して開催した。また，主な教育関係者への提供の場としてカリキュラム委員会の議事録は教授会で報告されている。
今後の計画
カリキュラム評価委員会で外部の教育専門家にも意見を求め，委員会の結果の提供を継続していく。
改善状況を示す根拠資料
資料7-12 令和2年度カリキュラム評価委員会（第1回）・医学教育分野別評価エリア主査会議（第1回）議事要旨 資料7-13 令和2年度第2回 カリキュラム評価委員会議事要旨 資料7-14 令和2年度第3回 カリキュラム評価委員会議事要旨

７．教育プログラム評価	**7.4　教育の関係者の関与**
質的向上のための水準　　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
プログラムの評価の結果の透明性を確保することが期待される。 カリキュラムに対するフィードバックを系統的に得る仕組みを整えることが期待される。	
改善状況	
外部の教育専門家も加わっているカリキュラム評価委員会でのプログラム評価結果の透明性を確保する為，その結果を教授会にて報告し，その後，適宜，カリキュラム検討委員会及び医学科教務部会へもフィードバックしカリキュラムに反映する仕組みになっている。	
今後の計画	
カリキュラム評価委員会で外部の教育専門家にも意見を求め，委員会の結果の提供を継続していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-3　令和2年度カリキュラム評価委員名簿 資料7-12 令和2年度カリキュラム評価委員会（第1回）・医学教育分野別評価エリア主査会議（第1回）議事要旨	

８．統轄および管理運営

８．統轄および管理運営	**8.1　統轄**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
新設されたカリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会，予定されてい	

る IR 部門において，既存の委員会との役割分担を明確にし，規定すべきである。
改善状況
カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会の規程に加え，IR 室においても IR 室規程を制定し，役割分担を明確にした。
今後の計画
各委員会を運営しながら，必要に応じて役割分担の見直しを行う。
改善状況を示す根拠資料
資料8-1　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規程 資料8-2　医学科における教育のPDCA図

８．統轄および管理運営	**8.1　統轄**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
より多くの教員からの意見を教育プログラムの改善にかかる委員会に反映させることが望まれる。	
現在の状況	
令和 2 年度より導入した新カリキュラムの策定にあたり，より多くの教員から意見を得るため，2019 年度にカリキュラム検討委員会に学年別 WG を設置した。 学年別 WG には，当該学年に開講される全ての科目の科目担当者が加わり，教育内容の整理や水平統合等について意見交換を行い，教育プログラム案を作成した。各 WG で集約した意見及び教育プログラム案はカリキュラム検討委員会に提出され，新カリキュラムに反映されている。	
今後の計画	
令和 2 年度入学生から順次導入した新カリキュラムについて，引き続き教員の意見を集めながら教育プログラムの改善を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

８．統轄および管理運営	**8.2　教学のリーダーシップ**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
教学のリーダーシップにおいて，評価基準や方法を定めて定期的に評価を実施することが望まれる。	
現在の状況	
教学を含む大学全体のリーダーである学長については，学長選考会議において，原則として毎年度，業務の執行状況に関し，評価を実施している。また，医学部長及び大学院医学系研究科長は，群馬大学学部長等の選考の取扱い（学長裁定）に基づき，任期 2 年とし，学部等から推薦された学部長等適任者 3 名から役員会の議を経て学長が指名する体制としている。	
今後の計画	
学長任期 4 年（再任時は 2 年の任期）の期間中は，学長選考会議において，原則として毎年度学長の業務の執行状況に関し，評価する体制を継続している。また，学部等において教学のリーダーシップを発揮できる医学部長及び大学院医学系研究科長を推薦された学部長等適任者 3 名のうちから，役員会の議を経て学長	

が指名（任期2年・再任可）する体制を継続している。
現在の状況を示す根拠資料
資料8-3　国立大学法人群馬大学学長選考規程 資料8-4　群馬大学学部長等選考の取扱いについて（学長裁定） 資料8-5　群馬大学医学部長適任者選考規程 資料8-6　群馬大学大学院医学系研究科長適任者選考規程

８.統轄および管理運営	**8.3　教育予算と資源配分**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
教育予算が教育上の要請に沿って決められていることを検証すべきである。	
改善状況	
医学系研究科長の下に設置されている企画戦略会議において，教育に関する予算についても議論している。また，教務委員会医学科部会や学生自治組織である学友会からの要望に基づき予算の確保が行われている。令和2年度は，新型コロナウイルス感染症への対応に必要な経費等について予算の執行がなされた。	
今後の計画	
企画戦略会議や教務委員会医学科部会，医学部予算委員会医学科部会等で教育上必要な事項について審議し，その要請をもとに適正な予算の配分に努める。	
改善状況を示す根拠資料	
資料8-7　群馬大学大学院医学系研究科企画戦略会議規程 資料8-8　群馬大学医学部予算委員会部会内規 資料8-9　第37回医学系研究科企画戦略会議次第 資料8-10 新型コロナウイルス感染症に係る学生支援実績	

８.統轄および管理運営	**8.3　教育予算と資源配分**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
医学の発展と社会のニーズに沿って，教育予算の配分を行うことが望まれる。	
現在の状況	
令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の感染拡大により，家計の急変等の経済的に被害を受けている学生をサポートするため奨学金給付等事業，オンライン授業サポート事業等を実施した。	
今後の計画	
引き続き，医学の発展と社会のニーズを鑑みた教育予算の配分を実施する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8-10 新型コロナウイルス感染症に係る学生支援実績	

８.統轄および管理運営	**8.4　事務と運営**
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
教育を支援する事務部門の業務の増加に対する対策を行うべきである。	

改善状況
教育を支援する事務部門の業務の増加や国際化の対策として，経験者採用で語学力の高い職員を 2 名配置した。 また，医学教育センターの機能を強化するために，医学教育センター教員を増員し，教育基盤を強化した。
今後の計画
教学 IR の活動，臨床実習終了後 OSCE の正式実施等，教育を支援する事務部門の業務の増加や高度化に対応するため，人員配置について継続して検討していく。
改善状況を示す根拠資料
資料5-14 2020（令和2）年度　医学教育センター教員配置

９．継続的改良

基本的水準　判定：部分的適合
改善のための助言
IR 部門を速やかに機能させて,カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会とともに機能的運用を行うべきである。
改善状況
カリキュラム検討委員会，カリキュラム評価委員会，IR 室が設置され，医学科教務部会と連携して活動している。各委員会の長が互いの委員会にオブザーバーとして参画しすることで，教学の PDCA を効果的に回すための機能的運用を図っている。
今後の計画
引き続き，カリキュラム検討委員会，カリキュラム評価委員会，IR 室の活動を継続し，医学科教務部会と連携した機能的運用に努める。
改善状況を示す根拠資料 資料8-2　医学科における教育のPDCA図 資料8-11 2020年度医学科教務部会委員名簿 資料8-12 令和2年度カリキュラム検討委員会名簿 資料3-3　令和2年度カリキュラム評価委員会名簿 資料8-13 令和2年度医学部IR室構成員名簿